公益財団法人日本台湾交流協会　2016 年度第 4 回日本語教育研修会

人間的成長を支える日本語教育について考えよう

目標

- ☐ 社会の変化とこれからの時代を生きるために必要な資質・能力とは何かを考える
- ☐ 人間的成長を支えることをめざした授業実践や教材開発事例を知る
- ☐ 自分はどのような資質・能力を育む実践をしたいかを考える

国際交流基金日本語国際センター　専任講師
大舩　ちさと

2016 年 2 月 11 日（土）台北：日本台湾交流協会台北事務所　文化ホール
2 月 12 日（日）高雄：実践大学高雄校区高雄市教学中心

最近10年間をふりかえってみましょう。

あなたの生活は
どのように変化しましたか。

近くの2～3人で話してください。
・人とのコミュニケーションツールには変化があったか?
・情報収集の方法には変化があったか?
・自分の移動距離には変化があったか?
・学び方・働き方には変化があったか?
・その他、どんな生活の変化があったか?

10年後の未来を想像してみましょう。

わたしたちの生活は
どのように変化するでしょうか。

近くの2～3人で話してください。
・コミュニケーションツール・テクノロジー
・学び方・働き方
・環境
・ヒトやモノの移動
・その他

あなたの教育方法は、
この10年間で
どのくらい変化しましたか?

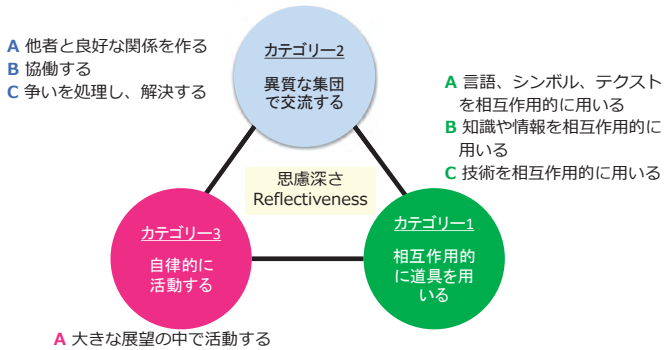
キー・コンピテンシー
(Key Competencies)

❖ OECD　DeSeCoプロジェクトが選定した
個人の人生の成功と良好な社会形成のために
すべての人に必要な普遍的・総合的な力（2003年）

21世紀型スキル
(21st Century Skills)

❖ アメリカ発
→ 国際的なプロジェクトへ
❖ 21世紀の知識基盤社会、デジタル社会を生き抜くために必要とされる高度かつ知的なスキル

キー・コンピテンシー



Rychen, D. S., & Salganik, L.H. (eds), "Key Competencies for a Successful Life and a Well-Functioning Society", Hogrefe & Huber Pub, 2003. （立田慶裕 監訳(2006)『キー・コンピテンシー 国際標準の学力を目指して』明石書店）

21世紀型スキル

1 思考方法： ① 創造性とイノベーション
② 批判的思考・問題解決・意思決定
③ 学習能力・メタ認知

2 働く方法： ④ コミュニケーション
⑤ コラボレーション（チームワーク）

3 働くためのツール： ⑥ 情報リテラシー
⑦ ICTリテラシー

4 世界の中で生きる： ⑧ 地域とグローバルで良き市民であること
⑨ 人生とキャリア発達
⑩ 個人の責任と社会的責任

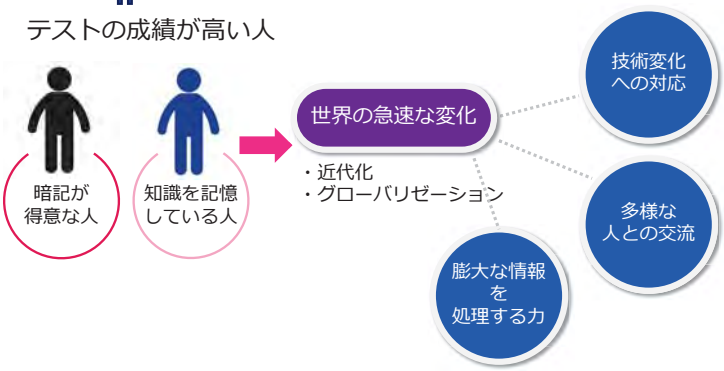
P. グリフィン・B. マクゴー・E. ケア編、三宅なほみ監訳(2014)『21世紀型スキル―学びと評価の新たなかたち』、北大路書房

背景

- 成績優秀者が必ずしも、いい仕事をしていない

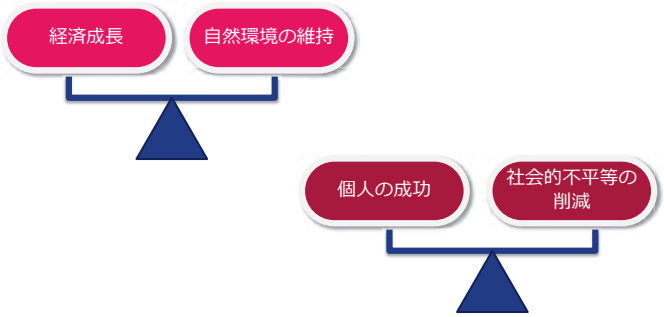
＝

テストの成績が高い人



背景

- 多くの国がめざしているのは、簡単には両立できなさそうなことがら



求められる力の変化

何を知っているか

↓

目まぐるしく変わる状況・環境をとらえ、
知識情報を入手・活用し、人とつながり、
何かを生み出す力

現行の教育課程の「重視して育てたい特徴的資質・能力」にみる共通要素

コミュニケーション能力
→ 自己表現力、協働力、対人関係力

思考能力
→ 論理的思考、批判的思考、問題解決能力、創造的思考

リーダーシップ

学習力 → 自律的に学ぶ力

生活スキル → 柔軟性、適応性、自己管理能力

知識・技能 → 読み書き計算、ICT活用能力

態度 → 責任感、寛容性

あなたの生徒・学生は
5年後、10年後に社会に出ていきます。

あなたはその生徒・学生たちに
どんな資質・能力を
身につけてほしいと思いますか。

あなたは授業のデザインをするとき
これらの資質・能力の向上を
意識していますか？

世界の日本語教師の実践

2016 ICJLE Bali シンポジウムより

2016年日本語教育国際研究大会（ICJLE）バリ

日本語教育グローバルネットワークシンポジウム

中等教育段階の日本語教育が果たす役割と課題

- 21世紀を生き抜く人間教育に取り組む世界の日本語教師からの提言-

● 5か国から5人の高校教師が実践を報告

- ケース 1　新しい教育の動向をふまえて開発された教科書を使う
- ケース 2　以前に開発された教科書＋プロジェクトワーク
- ケース 3　交流事業など課外のプログラムを実施
- ケース 4　教科書を使わず、プロジェクトを実施

エルワン・カスリヤント先生の実践

（インドネシア／アンバラワ第1国立高等学校）

使用教科書：『にほんご☆キラキラ』試用版

↑

- インドネシアの新国家カリキュラム「2013年カリキュラム」に基づいた教科書
- 「2013年カリキュラム」で提唱されている「科学的アプローチ」の学習プロセスを踏襲している

2016ICJLE Bali シンポジウム配布資料より

科学的アプローチの学習プロセス

学習手順	学習活動	開発されるコンピテンス
観察	読む，聞く，聞き取る，見る	態度（真剣･丁寧），情報収集力
質問	観察で理解できないことを質問する，または追加情報を得るために質問する	創造性，探究心，批判的思考力，質問能力
情報収集実験	実験を行う，教科書以外の資料を読む，対象･事象･活動の情報源となる人にインタビューする	態度（丁寧･正直･礼儀正しい），他者の意見の尊重，コミュニケーション能力，情報収集能力，生涯学習につながる学習習慣･能力
関連付け情報処理	集めた情報を処理する（より広く深く情報を収集する，異なる意見･対立する意見など様々な情報から解決策を探し出すなど）	態度（正直･丁寧･まじめ），規律，努力，手順適用能力，帰納的思考･演繹的思考により結論を出す能力
コミュニケーション	分析に基づいた観察結果･結論を口頭･文書･その他の媒体で伝える	態度（正直･丁寧･寛容），体系的思考，簡潔に意見を表明し，適切で正確な言葉を使用する能力

国際交流基金日本語国際センター（2015：15）

タイトル：バスで学校に来ます

目標

日本語

● 家から学校までの交通手段と通学にかかる時間を話すことができる。

<学習文型>

わたしはバイクで学校へ来ます。
うちから学校まで20分ぐらいです。
学校へ来ます。／行きます。

文　化

● インドネシアと日本の乗り物の文化（共通点や相違点）

21世紀型スキル・キーコンピテンシー等

● 態度：協力、責任

2016ICJLE Bali シンポジウム配布資料より

エルワン先生の実践

- 他教科の学びとの連携
  - → 日本語科目のことだけでなく、他の教科ではどんなことを学んでいるのか、学んでいないのかについて教師が関心を持つ
- 生徒自身に発見させる
  - → 教師は待つことが仕事

変　化

- 生徒が、自分の意見を言ったり、他の人の意見に対するコメントをしたりできるようになってきた

ティーラット・ロームスィー先生の実践
（タイ／ランパーン・カラヤニー高校）

使用教材：『あきこと友だち』

- 教科書を用いながら、教育省の掲げる教育方針を意識して授業をアレンジ
- 外国語教育の4つのC
  Communication、Culture、Connection、Community

- 「26課　機械の説明」の発展プロジェクトとして
  「Love Care Share」を実施
  教科書のタスク：　理想のロボットを考えよう
  Love Care Share：障がいをもつ人に役立つ機械を考えよう

目標

日本語

- 自分の町にある物・施設について説明することができる。
- 調査した結果（インタビュー）について発表することができる。
- 物の使い方やシステムを説明することができる。

文　化

- 日本とタイの異文化　（※社会環境について）

21世紀型スキル・キーコンピテンシー等

- 新しいアイディアを取り込み、新たな物やシステムの案を創造し、その案について人に伝えることができる。

<達成に必要な知識・資質・能力>
障がい者についての知識、調査力、コミュニケーション力、
批判的思考力、協働力、社会・異文化間調整力、表現力、創造力

2016ICJLE Bali シンポジウム配布資料より

● プロジェクトの流れ（100分×10回）

- 事前課題：障がいのある人のための設備や物の写真を撮影
- グループで写真を共有、発表
- 障がいのある人の生活を体験し、体験の感想を書く
- 日本の障がいのある人の生活を紹介するタイのテレビ番組を視聴
- 障がいのある人に関する記事をグループで探して読み、内容をクラスで共有
- 体験、テレビ番組、記事から学んだことを基に、障がいのある人の悩みをまとめる
- 障がいのある人に役立つ機械を考える
- 発表準備（ポスター準備）
- ポスター発表（日本語で発表）
- 評価、自己評価
- ポートフォリオ

成　果

- 生徒が、現実に近い場面で日本語を使えるようになった
- 教科書にはない、自分たちに必要な言葉、文法、表現などが学べた
- 日本語以外のことも学べた
  例えば、社会環境、情報の探し方、チームワークなど

課　題

- 日本語を本当に勉強したと言えるのか。ただセリフを暗記しただけではないか
- 日本語の授業としてこのままでいいのか

2016ICJLE Bali シンポジウム配布資料より

プイ先生の実践

- 社会につながるプロジェクト
  → 自分たちの住むコミュニティ、そのコミュニティに住む人との共生に目を向け、日本の社会事情などについても学びながら、創造する機会を作る

- 思考をまとめる
  → アイディアを分類し、分析しながら考える方法、ツールを提供する

変　化

- 学習者中心の授業を行うようになってから、生徒が他の科目や授業外活動でも深く考えて作業をするようになった。係の分担などもできるようになっている。

教科書開発事例
講師が参画したプロジェクトより

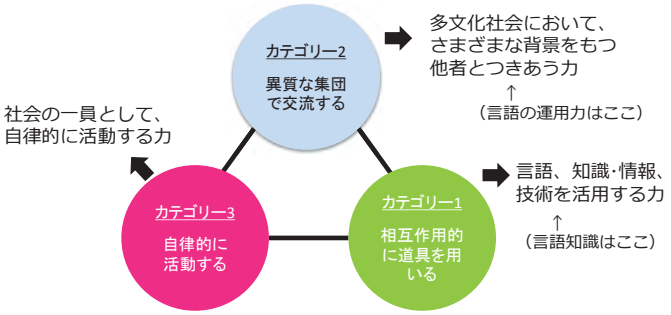
中国・大連市第2外国語教育用教科書
『好朋友－ともだち－』（2007-2010）

- コンセプトは「人間関係の温暖化」と「多文化共生」
- 全5巻。各巻冒頭には連載マンガ
  中国の中学校に転向してきた日本の女子中学生と大連の中学生の友情物語
- 日本語を学ぶことで世界とつながる

好朋友WEB

外国語科目は言語だけを扱えばいいわけではない。
では、どんな力を養成すべきなのか。
理論の軸とできるものはないか。

- 国や文化、職業等を越えて、すべての人に必要な資質・能力を定義しようとしているため、キーコンピテンシーを援用。
- 要素を中等日本語教育の文脈に置き換えて細分化し、指標とした。



キー・コンピテンシーの読み替えの例

2A　他者と良好な関係を作る　→ 他者と関係を作る力

2A1　他者に関心を持ち、積極的にコミュニケーションできる
2A11～2A15（以下、略）

2A2　他者との関係性、相互依存性を認識することができる
2A21～2A23　（以下、略）

2A3　相手の状況や立場に立って考え、相手を尊重することができる
2A31～2A32　（以下、略）

2C　争いを処理し解決する
→ 他者との摩擦を調整し、問題を解決する力

2C1　他者との摩擦、対立の原因を客観的に捉え、他者との調整を図りながら、問題を解決することができる
2C11　他者との摩擦の原因、対立点を把握する
2C12　感情を統制しながら、意見を交換する
2C13　妥協点を探りながら問題解決の糸口を探し、それを実行する

キー・コンピテンシーの読み替えの例

1B　知識や情報を相互作用的に用いる
→ 知識や情報を活用する力

1B1　必要な知識や情報を特定しその情報源にアクセスできる
1B2　収集した情報の適切さを判断することができる
1B3　収集した情報を整理することができる

3C　自らの権利、利害、限界やニーズを表明する
→ グローバル社会の一員として自分の意見を表明する力

3C1　グローバル社会の一員として自分の意見や感想を表明することができる
3C11　社会や集団のルールを知る
3C12　グループやクラス、学校の一員として、さらに大連や中国の一市民としてルールを踏まえて意見や感想を表明する

フィリピン中等教育用日本語教材
『enTree-Halina! Be a NIHONGOJIN!!』（1st Edition）

- 学習者に必要な力は何かを教材開発者で議論

フィリピンの社会事情・課題
多言語国家／貧困・格差社会／海外での就職を目指す
自国に関する知識の欠如／足をひっぱり合う性格

教育省が掲げる目標
①第2外国語におけるコミュニケーション能力の向上
②世界中のさまざまな就業の場で活躍する力
③異文化への寛容的な態度の育成

→ 世界中のさまざまな人・物・出来事に関心を持ち、自ら・自らの国に対して誇りを持ち、
道を切り拓いていく力を身につけてほしい

教材のコンセプトおよび特徴

- 各トピックの目標を達成する過程に日本語の学習を組み込む
  （母語／英語で達成する目標＋日本語で達成する目標）
- オーセンティックな素材を持ち込み、学びを実生活に活かす
- 人間関係の構築のため、気持ちの表現、リアクションを重視
- 自己・他者の再発見につながるアクティビティ
- 自分でオリジナルの教科書を作る
  →情報を整理・管理し、再度アクセスする力の育成
- 学習をモニターし、次の計画を立て、実行する
- 授業ごとのジャーナル作成
  →意志・意見・アイディア・感情を言語化し伝える力の育成

1課の構成例 (1) Unit 10 : Daily Meals

全体目標

- 日本人は普段日本食に加え、様々な国から入ってきた食事を食べていることを発見する。
- 日本の農林水産省が奨励する「バランスの良い食事」について知ることで、食べ物や健康についての意識を高める。

日本語

- 食事のあいさつや、料理の味などを言うことができる。
- 友だちに普段、朝食や昼食にどんなものを食べているか聞くことができる。またその質問に答えることができる。
- 自分の理想のメニューを日本語で伝えることができる。

●授業の流れ

- 知っている日本料理を挙げる
- 日本人が普段食べているものを予想する
- 日 日本の高校生3人の食生活の写真を見て、日本人が日常に食べているものについて知る
- 日 フィリピン人が食べているものについて、調査する（インタビュー活動）
- インタビュー結果を考察する
- 日本の食生活の変化とその長所、短所、食育の取り組みについて学ぶ
- 日 自分なりの健康メニューを作り、クラス内で共有する

1課の構成例 (2) Unit 24 : Food TRIP

全体目標

- 同じ国の中でも地域によって食文化が異なること、その背景には地理的要因が関係していることを知る。
- ハンバーガーなどの国際的に広がった食も地域ごとにアレンジが加えられて広がっていることを知る。
- グループで協働してフィリピンらしさを備えたオリジナルのハンバーガー案を企画し、プレゼンテーションする。

日本語

- 料理が何でできているのかを言うことができる。
- ファーストフード店で注文することができる。

●授業の流れ

- フィリピンの煮込み料理「アドボ」が地域によって異なることを写真を通して知る。（材料を言う）日
- 日 自分の家のアドボに何が入っているか、お互いに聞く。
- 食文化と地理的特徴の関係について考える。
- 日 世界のハンバーガーショップの特色あるバーガーには何が入っているかを知る。
- フィリピンらしいハンバーガーを開発するとしたら、どんなバーガーを作るといいか、グループで考える。
- 日 ファーストフード店での注文の仕方を学ぶ。
- 日 グループで考えたバーガーをプレゼンする。
- 日 教室の中でバーガーコンペを行い、自分の買いたいバーガーを買う。

enTree Book

Davao City National High School, Photos by Christine Joy C. Cabahug

J-Tree

Can-doの評価

- Can-doの後半が空欄。自分の言葉で熟達の度合いを記入
- 熟達を表す部分は、適宜書き換えていく。
- 熟達度の高低で評価しない。

評価するポイント：

- 空欄部分に熟達度を日付入りで記入しているか
- その熟達度が書き換えられているかどうか
  （モニターしているかどうかが重要）

例1：I can do self-introduction by saying my nickname and my favorite word ~~slowly (June 30)~~ slowly but with more confidence (July 4).

例2：I can do self-introduction by saying my nickname and my favorite word ~~slowly but with confidence (June 30)~~ less confidence (July 4).

ジャーナルの評価

- 学習者の意見、アイディア、アクションプランの内容の良し悪しは評価基準にしない。

評価するポイント：

- アクションプランの有無
- 内省の深さおよび広がり
  （自分自身が考えたこと・感じたことを理由などと共に丁寧に記述しているか、過去の経験と今回の学習で得た記述を結び付けて記述しているか等）

＊ルーブリックについては大船ほか（2011）を参照

学習者の内省の記述の変化

- 学習の開始時は、文章が短く、断片的
- 学習が進むにつれ、文章が長くなり、
  記述できることが増えていく学習者が見られる

→ 学習者の成長を支えているといえるのではないか

教師の声（MUN高校／C教諭）

The student “K” was a shy girl.
Through writing journals after every lesson of Japanese class, she has broaden her views wider and wider, become social and committed more class activities.

人間的成長を支える日本語教育について考えよう

■ あなたの考える「人間的成長」とはどのようなものですか。

■ 世界の日本語教育実践の事例の中に、自分の実践でも取り入れられそうなもの・挑戦してみたいものがありましたか？

目標設定・指標検討

- □ キー･コンピテンシーや 21 世紀型スキルを自分たちの現場にあわせて文脈化し、細分化する
- □ 自分たちの地域・学校の課題を話し合い、必要な資質・能力について考える

トピックや学習内容の選定

- □ 他教科の内容との連携（数学、理科、社会等）
- □ 日々の生活の質の向上につながるようなトピック
- □ 社会とつながる／社会課題に向き合うトピック

授業デザインで参照できること

- □ 「科学的アプローチ」のような探求型の学習デザイン

コミュニケーション以外の目的を追加してみる

- □ 何かを検証するためにクラス内でインタビューする
  例）食生活の実態調査、交通手段と環境問題 etc
- □ アイディアを得るためにインタビューする（マーケティングのような活動）

思考力

- □ 思考を整理し、まとめるツール（シンキングツール）の活用
  例）コンセプトマップ、ロジックツリー、ベン図、SWOT 分析、フィッシュボーン図 etc
  お勧めウェブ：「シンキングツール～考えることを教えたい～」（関西大学　黒上晴夫教授ほか著）
  http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf

ポートフォリオ・ジャーナル

- □ 管理する力を養うためのポートフォリオ作り
- □ 思考を言語化することをめざしたジャーナル作り

参考資料：国際交流基金日本語国際センター（2015：8）

表２　各国の教育課程で重視して育成しようとしている特色ある「能力やスキル」

国	汎用的能力	能力やスキルの特徴（A）と具体例（B）
イギリス	キー・スキル	A:英語・数学・理科の知識とそれに関連する能力・スキル B:会話言語、コンピュータ科学を重視。キー・スキルとして、コミュニケーションスキル、数字の活用、情報技術、他者との協働スキル、自律学習と成績の向上、問題解決、思考のスキル
ドイツ	コンピテンシー	A:全州共通のスタンダードの内容（ドイツ語、算数・数学、第1外国語（英／仏）、生物／化学／物理）の中に各コンピテンシーを組み込んでいる。 B:代表的コンピテンシーには、行為・事象・方法・自己・社会コンピテンシーがある。
フランス	共通基礎	A:共通基礎:知識と総合的能力(コンピテンス)と教養から成る。 B:知識と7つのコンピテンス:フランス語、第１外国語の運用能力、数学の基本原理と科学技術的素養、情報通信の日常的技術の習得、人文的素養、社会的市民的総合能力、自立性と自発性
フィンランド	コンピテンシー	A:全的な発達と責任ある市民として生きていくために必要な知識と技能の習得、生涯学び続けるための素養の涵養 B:人として社会の一員としての成長、教育の機会均等の推進、生涯学習の基盤づくり【以上基礎教育の目標】
アメリカ	大学・キャリアレディネス／21 世紀型スキル	A:知識の獲得を踏まえたスキルの獲得 B:大学や職場に入ってから活躍するための力（CCR）、4C (Communication, Collaboration, Critical Thinking, Creativity)＋3R(Rights, Responsibility, Respect)
カナダ(オンタリオ州)	21 世紀型スキル	A:学習スキルと学習習慣 B:責任感、自己管理能力、自主的に課題を解決する力、協働、学習への積極性、自律性
オーストラリア	汎用的能力	A:汎用的能力 B:リテラシー、ニューメラシー（筆者注:数学の基礎知識）、ICT 技能、批判的・創造的思考力、倫理的行動、異文化理解、個人的・社会的能力
ニュージーランド	キー・コンピテンシー	A:キー・コンピテンシー B:思考力、言語／記号／テキストの活用能力、自己管理力、他者と関わる力、社会に参加し貢献する力
韓国	核心力量	A:グローバル創意人材に必要な核心力量 B:自己理解力、意思疎通能力、論理力、想像／創意力、文化的感受性、問題解決能力、市民共同体精神、リーダーシップ
中国	動手能力（実践能力）	A:社会実践を豊かにして能力を育成強化、実践能力重視 B:学習への主体的参加、探究心、情報収集／処理能力、自ら考え行動する力、自主的な社会適応力、問題解決能力、創新能力

国立教育政策研究所（2013c：7－11）比較表 1－3 より抜粋

参考資料：国際交流基金日本語国際センター（2015：35）

表４　５か国の教育文書に見る学習目標（重視して育てたい特徴的資質・能力）

インドネシア	**21 世紀型スキルに通じる資質**（資料 2） ①創造性　②自律性　③協調性　④連帯　⑤リーダーシップ　⑥共感力　⑦寛容性　⑧生活能力 **コア・コンピテンスと基礎コンピテンスによる段階的な目標設定**（資料 2） ◇コア・コンピテンス：学習者が卒業時に一定の基準に達するように、各学年・プログラムで設定する、精神的態度、社会的態度、知識、技能の４つの側面からなる包括的な能力レベル記述 ◇基礎コンピテンス：コア･コンピテンスに基づき設定する、各科目の授業で具体的にめざす能力記述
タイ	**5 つの素養**（資料 38） 1. コミュニケーション能力：情報発信力･受信力、自己表現力、交渉能力、情報処理能力等 2 .思考能力：意思決定をするための分析的、統合的、建設的、批判的、組織的思考能力等 3. 問題解決能力：問題処理能力、関係性構築能力、意思決定力等 4. 生活スキル応用能力：生活適応能力、自己学習能力、勤労、社会調査、環境適応能力等 5. 技術応用能力：情報技術活用能力等
フィリピン	**心身一体の全人的成長と 21 世紀型スキルの獲得**（資料 26） 1. 学習能力とイノベーション力：創造力と好奇心、 批判的思考・問題解決能力・リスク管理能力、適応能力・複雑な問題への対応力・自己統制力、 高度な思考能力と論理性 2. 情報力とメディア・技術駆使力：ビジュアル・情報リテラシー、 メディアリテラシー、 基本的な科学・経済・技術リテラシー、 多文化リテラシーとグローバル化の意識 3. コミュニケーション能力：共同作業における協働力・対人関係力、社会に対しての責任と市民としての責任、 対話力 4. ライフスキルと職業能力：柔軟性と適応性、 自発性と自己統制力、 社会的スキルと異文化間スキル、 生産性と責任感、 リーダーシップと責任感
ベトナム	**学生の能力開発･強化･動機づけ**（資料 50） 1. 創造力と追及力　2. 自律学習　3. 自分の知識を実用的目的のために使用する能力 4. 知識の追及に対する学習者のニーズや関心 **ソフトスキル <21 世紀型スキルに通じるスキル>**（国際交流基金 2014） 1. 対人関係に関わるスキル（リーダーシップ、問題解決能力等） 2. チームワークや協働に関わるスキル（ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル等） 3. コンピテンシー（ICT 活用力、数学的な力、外国語の運用力等）
マレーシア	**6 つの資質・能力（KTLBEN）**（資料 15） 1. 知識（K）：識字、計算能力、国・地域・世界の歴史・地理、芸術、音楽、スポーツ等 2. 思考能力（T）：生涯学習能力、問題解決能力、論理的思考、創造的思考、イノベーション等 3. リーダーシップ（L）：起業精神、逆境に向う強靭な意志、高度なコミュニケーション能力等 4. バイリンガル（B）：バイリンガル能力 5. 倫理と精神性（E）：賢明で原理に基づく決定を行う力、正しいことを行う力、福祉の心 6. 国民としてのアイデンティティ（N）：国への帰属、多様性の受容、地球市民であることのバランス

参考文献リスト

- 大舩ちさと・和栗夏海・フロリンダ アンパロ A. パルマヒル・フランチェスカ M.ヴェントゥーラ（2011）「評価で学習者の自律性は育めるか―フィリピンの高校生向け日本語リソース型教材『enTree』の挑戦―」『国際交流基金日本語教育紀要』7 号、pp.135-150
- 大舩ちさと・和栗夏海・松井孝浩・須摩亜由子・フロリンダ アンパロ A. パルマヒル（2012）「「プログラムの継続性」と「学習の継続性」を目指した日本語教育導入の試み－フィリピンの中等教育における実践から－」『国際交流基金日本語教育紀要』8 号、pp.151-168
- 大舩ちさと（2014）「学習者のオリジナル教科書の中で大きく育つ日本語の木－フィリピン中等日本語教育用教材『enTree』の評価ツール」、国際交流基金日本語教育通信海外日本語教育レポート第 30 回 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/report/201411.html>（2017 年 2 月 8 日閲覧）
- 加納陸人・中新井綾子・藤光由子・大舩ちさと（2009）「人間関係と多文化共生を重視した教材開発－大連市中学校第二外国語教育用教材『好朋友－ともだち－』の試み－」『2009 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』273-274.
- P. グリフィン・B. マクゴー・E. ケア編、三宅なほみ監訳、益川弘如・望月俊男編訳（2014）『21 世紀型スキル―学びと評価の新たなかたち』、北大路書房
- 国際交流基金日本語国際センター（2015）『21 世紀の人材育成をめざす東南アジア 5 か国の中等教育における日本語教育－各国教育文書から見える教育のパラダイムシフト』国際交流基金日本語国際センター
- 国際文化フォーラム（2009）「21 世紀を担う子どもたちに身につけてほしいもの」『国際文化フォーラム通信 81 号』
- 国際文化フォーラム（2010）「『好朋友』に託すメッセージ－ストーリー漫画を日本語教科書に取り入れて」『国際文化フォーラム通信 87 号』
- 国立教育政策研究所（2013c）『教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 6　諸外国の教育課程と資質・能力』、国立教育政策研究所
- ドミニク S.ライチェン・ローラ H.サルガニク著、立田慶裕監訳（2006）『キー・コンピテンシー―国際標準の学力をめざして』、明石書店
- 日本語教育学会（2016）「中等教育段階の日本語教育が果たす役割－21 世紀を生き抜く人間教育に取り組む世界の日本語教師からの提言－」2016 年日本語教育国際研究大会バリ大会（ICJEL2016, Bali）シンポジウム配布資料, 18.
- 八田直美・エフィ ルシアナ・三本智哉・五十嵐裕佳・古内綾子（2016）「能力（コンピテンシー）の育成を目指した高校日本語教科書の開発－インドネシア国家カリキュラム準拠『にほんご☆キラキラ』の試み」、2016 年日本語教育国際研究大会口頭発表予稿集
- 古川嘉子・中野佳代子・尾関史・大舩ちさと（2015）「21 世紀の人材育成をめざす ASEAN5 か国の中等教育における日本語教育－教育政策資料の比較分析から－」『2015 年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.129-133
- 松尾知明（2014）『教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる授業デザイン－』、学文社
- 松尾知明（2015）『21 世紀型スキルとは何か－コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較』明石書店
- 松井孝浩・大舩ちさと・和栗夏海・須摩亜由子（2013）「アイデンティティ形成を支える日本語学習活動の実際－フィリピン中等教育機関向け教材『enTree-Halina! Be a NIHONGOJIN!!-』の学習活動から－」『国際交流基金日本語教育紀要』9 号、pp.25-42

WEB 報告

- 国際交流基金日本語国際センター第 21 回海外日本語教育研究会公開シンポジウム「21 世紀の人材育成をめざす東南アジア 5 か国の中等教育における日本語教育－各国の教育文書から見える教育のパラダイムシフトー」開催報告 <http://www.jpf.go.jp/j/urawa/news/news_160130_repo.html>（2017 年 2 月 8 日閲覧）